

特集 安寧の都市を考える

土井 勉 安寧の都市ユニット 副ユニット長

冒頭にあたり、この3月11日に起こった東日本大震災・津波・原子力発電所の損壊などで被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一刻も早い復興を心からお祈り致します。

復興を進めるにあたり、現在の我が国だけではなく世界の都市が直面している環境問題、高齢社会への対応、産業構造の再編などの諸課題に対応して、持続可能な国土構造の再編や望ましい都市像の構築が期待されている。京都大学に2010年4月に新設された「安寧の都市ユニット」では、こうした状況を踏まえて、まさに安寧な都市を創造するために全力を尽くしたいと考えているところである。

安寧の都市ユニットは、都市系工学と人間健康科学を専門とする教員・研究員で構成される工・医融合の極めてユニークな研究・教育組織である。ユニット設置の基本的な考え方については、巻頭言で谷口栄一ユニット長が既に述べているとおりである。

産業革命以降の効率性の向上を基本的な思想とする機能論的な都市像は、過剰なモータリゼーションの進展の反省もあり、コンパクトシティやスマートシティなど新たな都市のあり方の模索が世界の諸都市で行われている。我々の「安寧の都市」という考え方も、こうした新たな都市のあり方の構築を目指すものである。そのため、「安寧の都市」の基本的な考え方を具体化し、研究・教育の方向を定めることが必要となる。

本誌では、上記の問題意識を踏まえて「安寧の都市」を考えるための3つの特集を組んでいる。

特集1は、安寧の都市ユニットの発足を記念して開催したシンポジウムにおける中村良夫・東京工業大学名誉教授（前京都大学大学院教授）による講演「『安寧の都市』論の構築に向けて——身体と場所の風景論から」と小川道雄・市立貝塚病院総長による講演「『安寧の都市』づくりに向けて——地域医療はどうなるか」の2つの講演録と、こうした問題提起を踏ま

えて安寧の都市ユニットの若手メンバーを中心に議論を重ねてまとめた「安寧の都市論」の3本の論文で構成されている。安寧の都市を考える導入部として、ぜひご一読いただければ幸いである。

特集2は、安寧の都市ユニットで継続的に開催している公開セミナーから、森雅志・富山市長による「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」と苦瀬博仁・東京海洋大学副学長による「都市の物流マネジメントと病院のロジスティクス」の2つの講演をまとめた記録である。安寧の都市ユニットでは、行政、災害、医療、まちづくり、都市論、交通など多彩な分野の専門家をセミナーの講師として招聘し安寧の都市をテーマとする講演をいただいている。今後も、こうした公開セミナー活動を継続していくことにしている。

特集3では、安寧の都市と考えられる世界のいくつかの都市に対して、ユニットの工学系と医学系など異分野のメンバーを組み合わせ、行政や大学などへのヒアリングと現地調査を実施した記録である。訪問した国は米国（ポートランド他）、オーストラリア（アデレード他）、ブラジル（クリチバ）、フランス（ニース他）である。ここでは、米国、オーストラリア、フランスの各都市の記録と京都の町家に関する記事を掲載している。同じ都市を見ても、あるいは同じ人にヒアリングを行っても異分野の人間と一緒にだと、今までの視点とは異なる見え方がする。こうして得られた様々な体験や実践的な知、キーワードなどは、特集1の「安寧の都市論」の議論に反映している。同時に、ユニットにおける教育や研究の材料にもなっている。この特集3については、少し気楽にお読みいただける内容となっている。

今回の3つの特集を通して、安寧の都市を構想することに対して、我々の心意気を感じていただければ幸いである。

なお、安寧の都市ユニットは履修期間1年（4月～3月）の社会人履修生を公募している。履修生の募集に関する案内をはじめ、セミナー開催情報や被災地支援の記録など、当ユニットのHP（<http://www.ulc.kyoto-u.ac.jp/>）に掲載している。ご覧いただければ幸いである。